# 市民病院 ハナちゃん通信

問合せ
市民病院管理課
☎(48)5050

## 栄養室を紹介します

栄養室は、管理栄養士、栄養士、調理師、調理員のスタッフで構成され、病院食の献立作成・発注・調理・配膳、栄養相談などを行っています。入院している人に、安全で安心な食事を食べていただくため、スタッフは衛生面、調理方法、盛り付け方などを注意しながら、病状に合わせて糖尿食、減塩食、腎臓食、術後食、アレルギー食など多種多様な食事を作っています。

△行事食（お正月）

病院食のサービスとしては、お正月などの行事食、選択メニュー、祝い膳（出産した人が対象）などを行っています。また、入院している低栄養の人に対して、栄養状態の改善を図るため、医師や看護師、薬剤師などの多職種で協力して検討をしています。個人栄養相談では、毎日の食習慣を伺い、食生活の改善を提案しています。長年続けてきた食習慣を見直すのは大変ですが、有益な話ができるように努めています。

△小児科病棟クリスマス会おやつ

# 碧南の歴史へのいざない

問合せ
文化財課内市史資料調査室　☎(41)4566

## No.57　西端の「応仁寺」(4)

応仁２年（1468年）、如光が蓮如を西端に招いたおり、如光の実家である杉浦一族が蓮如のために準備した建物は、その後、西端道場と呼ばれ、さらに江戸時代中ごろより「応仁寺」となりました。

応仁寺は、住職もだん家もいないお寺で、西端村が代々世話をして守ってきました。ところが、明治政府になると「廃仏毀釈（はいぶつきしゃく）」の方針で、住職のいない寺は廃寺（はいじ）と決まりました。西端村惣代（にしばたむらそうだい）や組頭（くみがしら）は赤坂役所に廃寺とならないよう嘆願書を提出しましたが、許されず、廃寺とされることになりました。この維新期に全国の寺や城は、廃寺、廃城の憂き目にあい、壊されています。

ところが、応仁寺本堂は、安政の大地震（1854年）で倒壊したものを再建したばかりで、再建のための負債が残っていました。このため村の共有物ということにして真新しい本堂は壊されず、月日が経ちました。

明治５年（1872年）政府は、「学制」といって村ごとに小学校をつくるように命令を出しました。建設費用は地元負担です。西端村惣代は、愛知県令に対し村がお寺の負債を肩代わりするから、本堂を校舎として使用させてほしいと願書を出しました。

本堂は壊されず、そのまま残ることになり、４つに分けて１年生から４年生の教室ができました。このときの義務教育は４年間でした。明治７年、運動場にするため北の長さ40ｍほどの堀（加賀堀・越前堀）が埋められたといいます。

応仁寺が小学校という時代は、昭和40年（1965年）までの93年間でした。この年の８月30日、現在の碧南市上町に鉄筋三階建校舎が完成しています。

△空から見た西端小学校（昭和37年ごろ）